

ページ	該当箇所	誤	正
4	平成28年度第1回 [問1 (2) (i)] [解説] 下から4行目	シングモード	シングルモード
6	平成28年度第1回[問1 (2) (ii)] < (カ) の解答群 >③の4行目	IISケーブル	HSケーブル
7	平成28年度第1回[問1 (3) (i)] [設問] Bの2行目	増幅器	増幅器
7	平成28年度第1回[問1 (3) (i)] [設問] Bの3行目	増幅器	増幅器
7	平成28年度第1回 [問1 (3) (i)] [解説] 2行目	半体光増幅器	半導体光増幅器
8	平成28年度第1回[問1 (3) (ii)] < (ク) の解答群>[解説]①の2行目	……低雑音増幅を目的とする場合は1.48 $\mu$ m帯、高出力動作を目的とする場合は0.98 $\mu$ m帯のLD (半導体レーザ) が用いられる。	……低雑音増幅を目的とする場合は0.98 $\mu$ m帯、高出力動作を目的とする場合は1.48 $\mu$ m帯のLD (半導体レーザ) が用いられる。
25	平成28年度第1回 [問4 (2) (ii)] [解説] 7行目	現象から原因に向かってトップダウンの手法により故障波及状況や影響度などを解析する手法は、FTA (Fault Tree Analysis) である。FMEA (Failure Mode and Effects Analysis) は、逆にボトムアップの手法で、	システムや装置に起こり得る故障モードを予測し、ボトムアップの手法により故障波及状況や影響度などを解析する手法として、FMEAがある。現象から原因に向かってトップダウンの手法により製品の故障とそれにより発生した事故の原因を解析する手法は、FTA (Fault Tree Analysis) である。
37	平成28年度第2回 [問1 (2) (ii)] [設問] 選択肢C 2行目	SZ抛り	SZ抛り
39	平成28年度第2回 [問1 (3) (ii)] (ク) の解答群 ①	生産段階	生産段階
46	平成28年度第2回 [問3 (1)] < (ア) ~ (エ) の解答群 >	⑭までしか記載がない	⑮シーリングテープ ⑯温度サイクル試験
49	平成28年度第2回 [問3 (2) (ii)] [設問] B 1行目	集合装置	集合装置
64	平成28年度第2回 [問5 (5)] (ク) の解答群 ① 3行目	設備保有者	設備保有者
81	平成29年度第1回 [問3 (1)] [設問] 下から3行目	このダイナミックレンジを	このダイナミックレンジを
93	平成29年度第1回 [問4 (3)] [解説] 下から1行目	[%/時間]	[%]
108	平成29年度第2回 [問1 (2) (iii)] [解説] ① 4行目	心線の本数は、 $8 \times 12 \times 10 + 8 \times 5 \times 1 = 1,000$ となる。	心線の本数は、 $8 \times 12 \times 10 + 8 \times 1 \times 5 = 1,000$ となる。
108	平成29年度第2回 [問1 (2) (iii)] [解説] ④ 2行目	ヤング率 (縦弾性係数) が銅線と同程度の	ヤング率 (縦弾性係数) が銅線の $\frac{1}{4}$ 程度の
116	平成29年度第2回 [問2 (3) (i)] [解説] の1行目	【解説】 電線類の地中化などについての設問である。	【解説】 無中継光海底ケーブルシステム及び中継光海底ケーブルシステムについての設問である。

ページ	該当箇所	誤	正
116	平成29年度第2回[問2(3)(i)] [解説]の④の記述	【解説】 ④の記述は、誤りである。：中継光海底ケーブルシステム及び無中継光海底ケーブルシステムでは、水深8,000[m]程度まで光海底ケーブルを敷設することがあるが、光海底ケーブルの最大適用水深はケーブルの種類による(LW(Light. Weight)ケーブルの最大適用水深は8,000[m])。	【解説】 ④の記述は、誤りである。：深い海底を通して長距離伝送することを想定している中継光海底ケーブルシステムでは、最大適用水深は8,000[m]である。一方、無中継光海底ケーブルは、比較的近距离にある離島の通信網整備を目的として、適用水深を最大3,000m程度とし、できるだけ多くの光ファイバを同一ケーブル内に収容できるようにしている(水深が浅いほど、ケーブルの耐水圧を低くできるため、より多くの光ファイバを同一ケーブル内に収容できる)。
122	平成29年度第2回[問3(2)(iii)] [解説]④の記述	④の記述が正しい。	④の記述は、誤りである。：可視光源としては、一般に、出力光を直視しても目の嫌悪反応によって、目が保護されるクラス2のレーザー安全規格を満たしている赤色LDが用いられる。クラス4は、人体に危険で、火災を発生させる危険のある高出力のレーザーの規格である。
145	平成30年度第1回[問1(3)(i)] 解説	【解説】 GE-PONに用いられる伝送技術についての設問である。	【解説】 線路設備に用いられるプラスチック材料の特性と用途、光クロージャの構造などについての設問である。
146	平成30年度第1回[問1(3)(ii)] [解答]	【解答】 (ク)：②が正しい。	【解答】 (ク)：④が正しい。
146	平成30年度第1回[問1(3)(ii)] 解説	【解説】 GE-PONに用いられる伝送技術についての設問である。	【解説】 光クロージャの構造などについての設問である。
158	平成30年度第1回[問3(2)(i)] [解説]	【解説】 通信線(メタリックケーブル)の非ガス保守などについての設問である	【解説】 通信線(メタリックケーブル)が受ける誘導についての設問である
171	平成30年度第1回[問4(3)(ii)] <(ク)の解答群>	① $2.01 \times 10^{-3}$ ② $4.00 \times 10^{-3}$ ③ $3.34 \times 10^{-1}$ ④ $4.96 \times 10^{-1}$ ⑤ $5.02 \times 10^{-1}$ ⑥ $6.66 \times 10^{-1}$	① $2.01 \times 10^{-3}$ ② $4.00 \times 10^{-3}$ ③ $3.34 \times 10^{-1}$ ④ $4.96 \times 10^{-1}$ ⑤ $5.02 \times 10^{-1}$ ⑥ $6.66 \times 10^{-1}$
181	平成30年度第2回[問1(1)] [解説]15行目	材料分散(エ)の和	材料分散の和(エ)
188	平成30年度第2回[問2(1)] [設問]12行目	埋設機	埋設機
188	平成30年度第2回[問2(1)] [設問]13行目	海産中継器	海底中継器
189	平成30年度第2回[問2(1)] [解説]参考	参考：比誘電率とは、真空の誘電率に対する物質の誘電率の比である。	削除
191	平成30年度第2回[問2(2)(ii)] [解説]③の記述と②の記述	③の記述は、誤りである。：地震発生時に液状化が…… ②の記述は、誤りである。：地盤が軟弱地盤から……	②の記述は、誤りである。：地震発生時に液状化が…… ③の記述は、誤りである。：地盤が軟弱地盤から……
192	平成30年度第2回[問2(2)(ii)] [設問]<(キ)の解答群>①2行目	交通量の多い道路においても任意にケーブル工事ができる	交通量の多い道路においても制約が少なくケーブル工事ができる
193	平成30年度第2回[問2(2)(iv)] [設問]<(ク)の解答群>④1行目	浸透性防錆材をコンクリート表面に塗布さびし、	浸透性防錆材をコンクリート表面に塗布し、
193	平成30年度第2回[問2(2)(iv)] [解説]③4行目	コンクリートはアルカリ性	コンクリートはアルカリ性
196	平成30年度第2回[問3(2)(i)] [解答]	【解答】 (オ)：③が誤っている。	【解答】 (オ)：①が正しい。

ページ	該当箇所	誤	正
199	平成30年度第2回 [問3(3)(i)] [設問] (キ)の解答群	設問④を修正。また、⑤を追加	④ 指定公共機関は、防災業務計画を作成し、又は修正したときは、速やかに当該指定公共機関を所管する大臣を経由して内閣総理大臣に報告し、関係都道府県知事に通知するとともに、その要旨を公表しなければならない。 ⑤ 指定公共機関として指定された電気通信事業者は、災害対策基本法などの法令に則り、電気通信設備等の耐水構造化や耐震構造化による電気通信設備等の高信頼化、主要な伝送路のマルチルート化や主要な中継交換機の分散設置による電気通信システムの高信頼化などの災害対策に取り組んでいる。
199	平成30年度第2回 [問3(3)(i)] [解説] 5行目	内閣総理大臣	内閣総理大臣
201	平成30年度第2回 [問4(1)] [設問] <(ア)～(エ)の解答群>⑨	⑨ 限界速度⑩	⑨ 限界速度
205	平成30年度第2回 [問4(4)(i)] [設問] (ii) 囲み内1行目	<(キ)の解答群>	<(ク)の解答群>
206	平成30年度第2回 [問5(1)] <(ア)～(エ)の解答群>	⑯までしか記載がない	⑯セキュリティパッチをダウンロードを追加
207	平成30年度第2回 [問5(1)] 1行目	バッファフロー (イ)	バッファオーバーフロー (イ)
209	平成30年度第2回 [問5(3)] [設問] <(カ)の解答群>②	提供する	提供する
215	平成31年度第1回 [問1(1)] 解説	【解説】 光ファイバケーブルの分構造、特徴など……	【解説】 光ファイバケーブルの構造、特徴など……
219	平成31年度第1回 [問1(3)(i)] [設問] (i) 1行目	正しいものは、	誤っているものは、
221	平成31年度第1回 [問2(1)] [設問] 15行目	オープン故障	オープン故障
223	平成31年度第1回 [問2(2)(i)] [設問] 1行目	(2) 次の文章は、光海底ケーブル故障位置の測定などについて述べたものである。	(2) 次の文章は、電線共同溝、電線類の地中化などについて述べたものである。
238	平成31年度第1回 [問4(2)(ii)] (カ)の解答群 ③ 2行目	いわれる。。	いわれる。
250	令和元年度第2回 [問1(2)(i)] [設問] 選択肢B 2行目	などがある。。	などがある。
253	令和元年度第2回 [問1(3)(i)] [解説] 7行目	等化増幅機能及び識別再生機能もない。	等化増幅機能はあるが、識別再生機能はない
258	令和元年度第2回 [問2(2)(i)] [解答]	【解答】 (オ) : ①が正しい。	【解答】 (オ) : ②が正しい。
266	令和元年度第2回 [問3(3)(i)] [設問] 1行目	(2) 次の文章は、線路設備における劣化とその対策などについて述べたものである。 □内の(オ)、(カ)に最も適したものを、下記のそれぞれの解答群から選び、その番号を記せ。	(3) 次の文章は、線路設備における劣化、電磁誘導などとそれらの対策について述べたものである。 □内の(キ)、(ク)に最も適したものを、下記のそれぞれの解答群から選び、その番号を記せ。
267	令和元年度第2回 [問3(3)(ii)] [解説] 3行目	異常時誘導縦電圧	異常時誘導危険電圧
268	令和元年度第2回 [問4(1)] [設問] ○の2行目の□内	(イ) 万円と求まる。	(エ) 万円と求まる。
269	令和元年度第2回 [問4(1)] [解説] 4行目	作業勾配	費用勾配
269	令和元年度第2回 [問4(1)] [解説] 16行目	必要勾配	費用勾配

ページ	該当箇所	誤	正
269	令和元年度第2回 [問4 (1)] 下から1行目	$3 \times 10 + 5 \times 2 + 18 = 58$ 万円 (エ)	$10$ 万円 $\times 3 + 5$ 万円 $\times 2 + 18$ 万円 $\times 1 = 58$ 万円 (エ)
271	平成28年度第1回 [問4 (2) (ii)] [解説] 5行目	現象から原因に向かってトップダウンの手法により故障波及状況や影響度などを解析する手法は、 <u>FTA (Fault Tree Analysis)</u> である。 <u>FMEA (Failure Mode and Effects Analysis)</u> は、逆にボトムアップの手法で、	<u>システムや装置に起こり得る故障モードを予測し、ボトムアップの手法により故障波及状況や影響度などを解析する手法として、FMEAがある。</u> 現象から原因に向かってトップダウンの手法により製品の故障とそれにより発生した事故の原因を解析する手法は、FTA (Fault Tree Analysis) である。